

## ICTの活用と関係者協働による 林業成長産業化

### 航空レーザ計測を起点としたICT活用と川上～川下連携による 新たな需要の創出

#### 【現状と課題】

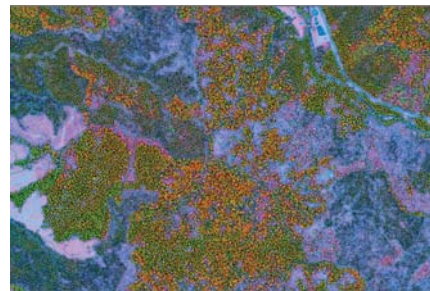
当地域では、現時点では皆伐後はおおむね再造林が行われているが、林業従事者の高齢化が進行しており、10年以内に4割の減少が危惧されていることから、持続可能性に不安があった。そのため従事者の確保に取り組むとともに、少ない従事者で現状以上の作業を行うために効率化に取り組むことが急務であった。また、皆伐再造林のサイクルを維持するためにも木材利用の拡大に取り組む必要があった。

#### 【アプローチ】

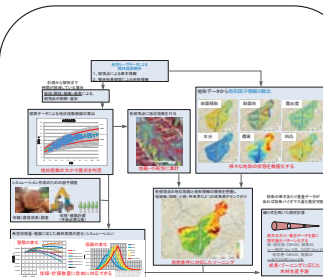
- 平成27、28年に実施した航空レーザ計測のデータや、ドローンによる空撮を、現場での作業に応用する。
- 航空レーザ計測のデータから計画面での応用が可能な情報を得る。
- 事業者がマッチングする機会を設け、木材利用拡大における課題を把握する。
- 成長産業化に係る取り組み推進のため研修会等を開催し、人材育成を推進する。

#### 【取組の効果・成果】

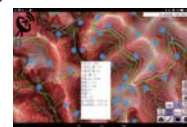
- レーザ計測のデータやドローンは現場での利便性が高く、効率化に効果があった。  
→タブレットの導入による現場打合せの効率化や調査の効率化など。
- 航空レーザ計測のデータより成長力のゾーニングを行うことで、現地調査を大幅に省略し、全体的な方針策定における有用な基準を得ることができた。
- 近隣事業者では、地域材を活用したいという意向があるが、川上において需要に対応した生産を行うことが必要



航空レーザ計測による資源情報(上)及び詳細地形情報(下)



ゾーニングの試行



タブレット画面



データの活用



林業成長産業化に向けたイベントの開催



ドローン、高性能林業機械活用研修会

#### 【他地域でも応用できる考え方及び普及の課題】

- 航空レーザ計測を起点としたICTの活用は、現場作業、計画の両面で効果が期待できるため、一連のパッケージとしては導入可能性は高い。
- 他地域での導入においては、初期費用、データ更新等の費用の目安を把握するほかにも、効果を定量的に把握することが必要になる。